

私が修学旅行に行って最も感じたことは、集団行動の大切さだ。

普段、教室で授業を受けているときも、もちろん集団行動の一つではあるが、修学旅行における集団行動は、もっと一人ひとりが意識して動かなければいけない。渡航前にうるさいくらい言われたり、並ぶ練習をしたりした理由は、スイス到着後よく分かった。

ヨーロッパのおしゃれな雰囲気の中かで、私たちが各々勝手に騒いでしまうと空気を壊すような気がした。みんなそれを感じてなのか、静かにガイドを聞きながら観光していたと思う。集団行動を何日もしていると、自然に今は何をするときなのかと周りを見られるようになっていった。一つ学ぶと更に他のことも身につけることができるのだと、今回の修学旅行で身をもって感じた。

他にも外国ならではのことを経験した。前回外国へ行ったときも思ったが、今回は、より関心を持ったからか、気になった。それは、ふとしたときの挨拶だ。朝だったり、初めて会ったりしたときには、ハロー。少しぶつかったりしたときには、ソーリー。何かしてもらったときには、サンキューと。これらの言葉がスッと出てくるのは、普通だと思うかもしれないが、素敵なことだと思った。最近はコミュニケーションをとるのが苦手な人も増えてきているといわれるが、コミュニケーションをとるためのきっかけとして挨拶から始めることもできるのではないかと。積極的に挨拶をしようとする雰囲気作りが大切だと思う。

私が今回の修学旅行で強く感じたことは、集団行動で動くこともそうだが、全てに共通する、周りを見るということだ。周りを見ることができなかつたら、自分のことだけしかなくなり、周りに迷惑をかけ失敗が多くなると思う。周りを見て動けたら、きっと良い印象を与え、できることもふえるだろう。この修学旅行で学んだことをこれからもっと活かしたいと思う。

